

胃癌の発育環境におけるペリオスチンの発現および機能の解析に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2020年11月25日～2025年3月31日

〔研究課題〕 胃癌微小環境におけるペリオスチンの発現および機能解析

〔研究目的〕

胃癌組織においてペリオスチンというタンパクの一種の発現量を解析し、癌の発育における役割を明らかにします。ペリオスチンの発現量が癌の進行や予後を予測するのに有用であるかを検討します。

〔研究意義〕

ペリオスチンは元々骨芽細胞の特異的因子として同定された分泌タンパクで、癌組織中に過剰発現していることが知られています。当初は癌細胞が産生し、癌促進作用があると考えられていましたが、今日では癌細胞を取り巻く癌周囲の細胞(癌関連線維芽細胞)が発現していることが明らかとなっています。癌関連線維芽細胞が分泌するペリオスチンが癌との相互作用によって癌促進作用を誘導することが報告されていますが、その詳細なメカニズムや予後との関連については明らかになっていません。また、ペリオスチンは癌のリンパ節転移を誘導する可能性が示唆されており、特にリンパ管内皮細胞の増殖を誘導することが示されています。胃癌は、癌の進行に伴ってリンパ節転移をきたしますが、胃癌リンパ節転移とペリオスチンとの関係性も明らかになっていないため、この関連性も含めヒト胃癌組織を用いて詳細に検討します。

〔対象・研究方法〕

2000年から2012年に帝京大学医学部附属病院にて胃癌で手術を受けた方を対象とします。胃癌の病理組織標本を用いてペリオスチンをターゲットとした発現量の解析を行います。

〔研究機関名〕

帝京大学医学部病理学講座

〔個人情報の取り扱い〕

研究結果は、個人が特定できない形で学会等において発表されます。収集したデータは厳重な管理のもと、研究終了後10年間保存されたのちに破棄されます。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者: 菊地良直 問い合わせ先: 主任教授 宇於崎宏

所属: 帝京大学医学部病理学講座

住所: 東京都板橋区加賀 2-11-1 TEL: 03-3964-1211(代表) [内線: 48210]